

福島市北信赤十字奉仕団(マロニエの会)

福島市北信赤十字奉仕団(マロニエの会)					
2012年度					
実施日	参加員数	内容	会場	参加人数	
4月1日(水)	2人	雑談、お茶を飲んでお茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	2人	
4月2日(水)	8人	雑談をしながらお茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	25人	
4月3日(水)	8人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	15人	
4月4日(水)	7人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	15人	
4月5日(水)	7人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
4月6日(水)	8人	ペン立て作り	福島市 宮代第一仮設住宅	18人	
4月7日(水)	4人	ペン立て作り	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
4月8日(水)	4人	ペン立て作り	福島市 宮代第一仮設住宅	12人	
4月9日(水)	4人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	12人	
4月10日(水)	7人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	12人	
4月11日(水)	8人	ペン立て作り	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
4月12日(水)	8人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
4月13日(水)	12人	お茶会	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
2013年度					
実施日	参加員数	内容	会場	参加人数	
4月1日(水)	8人	お茶会・口開き・心立て作成	福島市 宮代第一仮設住宅	8人	
4月2日(水)	7人	お茶会・ペン立て作成	福島市 宮代第一仮設住宅	7人	
4月3日(水)	7人	お茶会・お茶会作り	福島市 宮代第一仮設住宅	7人	
4月4日(水)	12人	お茶会・雑談	福島市 宮代第一仮設住宅	12人	
4月5日(水)	8人	お茶会・雑談	福島市 宮代第一仮設住宅	15人	
4月6日(水)	28人	グラウンドゴルフ練習会	福島市 宮代第一仮設住宅	18人	
4月7日(水)	7人	お茶会・心立て作成	福島市 宮代第一仮設住宅	10人	
4月8日(水)	7人	お茶会・ペン立て作成	福島市 宮代第一仮設住宅	8人	
4月9日(水)	7人	お茶会・雑談	福島市 宮代第一仮設住宅	22人	
4月10日(水)	6人	お茶会・グラウンドゴルフ練習会	福島市 宮代第一仮設住宅	2人	
4月11日(水)	8人	雑談	福島市 宮代第一仮設住宅	20人	
4月12日(水)	8人	お茶会・雑談	福島市 宮代第一仮設住宅	7人	
4月13日(水)	11人	お茶会・つるし簾作り	福島市 宮代第一仮設住宅	7人	
4月14日(水)	3人	つるし簾作り	福島市 宮代第一仮設住宅	14人	
4月15日(水)	7人	お茶会・お茶会作り	福島市 宮代第一仮設住宅	25人	

[活動の実績はこちら](#)



★いつから活動されていますか？

- 仮設住宅への支援は、2011年9月半ばより活動を開始。活動と言うよりは、仮設住宅の立地が悪いことから買い物等大変であろうと思い、声をかけ始めた。奉仕団員は、誰かに出会い、話し合う、分かち合うことで心が少しだけ軽くなり、前向きになれる。そんな一助となればと思って活動を始めた。

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 主に浪江町民の皆さん。(福島市内、宮代第一、第二仮設住宅)

★どんな活動をされていますか？

- 当初は仮設住宅への引越し支援から始まったが、住民より「誰かと話したい」「飴っこ持ってお茶のみしたい」など声を多く掛けられる。心の支援の必要性を強く感じ、お茶会を実施する事にした。
- 住民の方と親しくなり、飼い犬の散歩なども一緒にしたり、仮設住宅内に桜の木があることからお花見なども実施した。



★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか？)

- 当初、少人数での活動であったが、自主的に団員が集まり始め自発的に活動に繋がった。

★被災された方々の声はどうでしたか？

- 当時、仮設住宅に入居された方々は互いに浪江町民であることの認識はあったものの、顔見知りや知り合いではなく、同郷であるにもかかわらずよそよそしい雰囲気であった。
- 活動をしているうち、50代男性より「家内が亡くなった。夢も希望もない。話を聞いてもらってホッとした。」と言われた。お互いが避難しているのだから、仮設住宅内でそういった話をする事が出来なかったようだ。

★支援活動において良かったことは何かありますか？

- お茶会を実施する事により、住民が仮設住宅内で友達を作る機会が出来たと感じている
- お花見など交流が出来て楽しかった。グラウンドゴルフなどお上手な方に教わりながら一緒に交流できて楽しかった。
- 仮設住宅で待っていてくれると思うと私達も嬉しい。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 少しでも要望にお応えできるようアンケートを実施したが、要望に応えられないものもあった(温泉施設に行きたいなど)。
- 困ったことではないが、仮設住宅住民の方が、自分の居場所がない、これからのことを決断できない、など多くの悩みを抱えていることに心を痛める。
- 現時点でも日常的に話が出来ない人が欲しいと強く感じている。
- 声を掛けないで欲しいと言われた事もある。





- 借上げ住宅の方が、寂しいと言う話をよく聞く。また、復興公営住宅に入居された方も住民票など浪江町の住民であるので、地域自治体には入らないなど伺う。勇気をもって復興公営住宅に引越しをしたが、地域との繋がりがなく孤立しているとの話を仮設住宅で伺う。そう言った噂もあり、新しい決断をできない住民も多いそうだ。

★支援活動前に知っていれば良かったことは何かありますか？

- 住民の声を聞いてニーズに応じてきたので、特にはない。

★今後の支援活動において何か新しい取り組み等がありましたらお聞かせ下さい

- やはり地元(浪江町)のものは喜ばれることから、浪江のおどり隊など大変喜ばれているので継続していきたい。
- 地域住民とも交流できるよう、地域の催しに参加を呼びかけるなど、積極的に活動を展開している。避難されている方々が地域住民と仲良くなれるような支援をこころがけている。

★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- 無理をしない、やれる人がやるので特に感じない。私達の団は委員長より全て指示いただいているのでスムーズである
- 必要性は感じていない。